中国の抗戦勝利記念日とメディア・イベント－1945～1949年

孫　安石（神奈川大学）

はじめに

本報告は1945年～1949年の間の中国の抗戦勝利記念日（9月3日）が新聞メディアでどのように報道されたのかに重点をおきながら、満州事変、盧溝橋事件、上海事変など日中関係に関連のある各種紀念日にどのようなメディア・イベントが展開されたのかについて検証する。

具体的には戦時首都が位置した重慶で発行された『中央日報』（国民党系）と『新華日報』（共産党系）という新聞メディアを取り上げ、中国の国内政治と国際政治の脈絡の中で、各種の記念日がどのように評価されていたのかについて検証する。

1．1945年7月の中国・重慶の新聞メディア

1945年7月に入ると抗日戦争の勝利を予測する記事が多数、掲載される。たとえば、1945年7月7日の「抗戦第八年記念日　蒋介石主席勉全国軍民」の中で蒋介石は、世界の戦局からみればヨーロッパ戦線での勝利、世界平和機構の準備が整えつつあり、中国戦前での勝利は一年前より確実に改善されたとし、最後の勝利のために①基本国策の貫徹（対外的な独立、対内的には統一）、②精神上の道義力量の発揮（物理的な利害と是非にとらわれない）、③勝利の意義を再確認し、三民主義の実現すべきである、と主張する。

▲中国各地における「公祭革命先烈及抗戦陣亡将士」という追悼イベント（7月7日、盧溝橋事件）の開催とニューヨークとパリにおける「抗戦八周年記念会」の開催される（「華僑戦時救済協会」が主催、『中央日報』7月9日）。

▲国際連帯の強調と抗日戦争の正当性－『中央日報』7月7日～14日の間に「全世界的友情」という増刊を発行し、抗日戦争に対する世界の支援を紹介し、また、華僑による「献金、献機、献車」も同じ脈絡で大きく報道。

【表1】『中央日報』・『新華日報』の1945年7月の日本関連記事（部分）

7月14日		「燃焼爆炸弾三千余噸　撃中日本四大城市　日本心臓区四処起火」
7月14日	社論	「祝法蘭西国慶」－フランス革命の精神と世界のモデルとしての革命
7月26日		「美艦砲轟倭本土　海戦開始新段階」－東京空爆を紹介。
7月28日		「美英中三領袖公告　迫日本無条件投降」－ポツダム宣言の13項目を紹介。
7月28日	社論	「中美英三国対日公告」
8月2日		「波茨坦会議昨結束　杜魯門定今拝晤英王」
8月4日		「波茨坦会議公報発表」
8月8日		「原子爆弾威力空前　滅亡大雨将降倭土」
8月9日		「蘇聯対日宣戦」
8月10日		「沿両千哩前線推進百万蘇軍鉗攻東北」、「蒋主席電史達林表示佩慰」 「日本何時投降」
	社論	「蘇聯対日宣戦」－ソ連の対日宣戦布告は、日本侵略者の死刑を意味する
8月11日		「面対壊滅絶境　日本請求投降」 「無条件投降応無選択　保留天皇制顕有困難」
	社論	「論日本投降」
		「本報緊急啓事」のお知らせ
		「頃因日本政府既公布願接収中英美三国在波茨坦促日本無条件投降之声明…」
「原子爆弾・蘇連参戦」－原子爆弾を使うことになった経緯の説明。		

『新華日報』

7月29日　社論「徹底消滅日本法西斯」
8月3日「米巨機投弾六千噸猛炸敵四工業城市」
8月4日「歴史又前進了1歩」
8月9日「蘇聯今日対日宣布」号外を発行
8月10日「蘇聯対日戦争」
8月11日「日本政府無条件投降」
社論「日本法西斯無条件投降」
「中国」抗戦勝利万歳

▲「四強接受倭投降　天皇統治須聴盟方命令」（8月12日）－スイス公使館からの情報
「滬市掀起狂歓浪潮　偽電台□広播日投降消息」（8月12日）
－上海国際広播電台XGOOは日本政府がポツダム宣言を受諾したことを報道し、上海は歓喜に包まれた。
「太平洋戦事継続進行」

▲「受降覆文送達東京　四強佇待倭覆牒」
「狂歓之後　重慶動態速写」

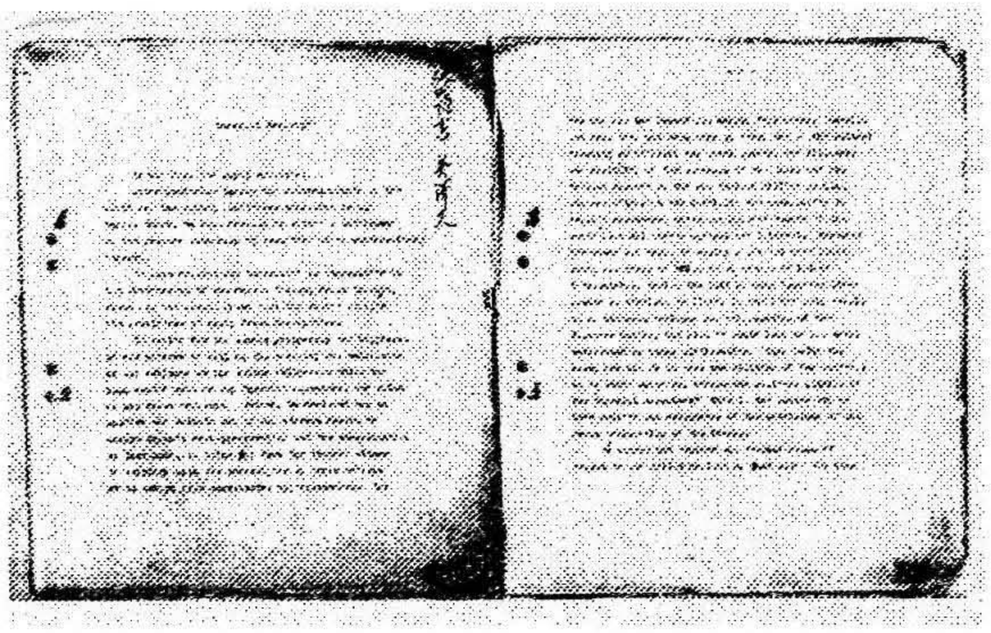
「日本投降消息伝出　各地狂歓慶祝」

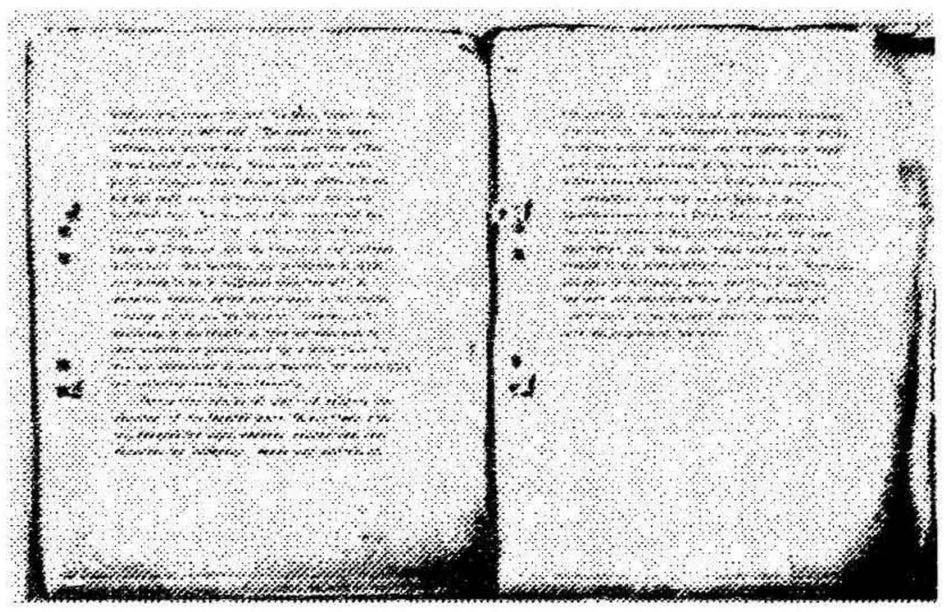
社論「今年的八一三」（8月13日）ー日本がポツダム宣言を受け入れたが、中国国内には依然として戦闘が続いており、抗戦の最終目的は達成されていない。

▲「空軍節」、「慶祝空軍節的希望」、「陪都拡大慶祝空軍節」、社論「創造性的復員」、「抗戦勝利功帰軍民今後建国将愈艱鉅　蒋主席在中区記念週致訓」、「慶祝勝利大会　陪都各界昨開口備会　将有二十万大遊行」（8月14日）

2．1945年における8月15日と9月3日、そして、10月10日の報道

資料　1　終戦詔書　英訳文（外交史料館、マイクロA0114）





①8月15日の記憶

▲「倭答覆送達瑞西　瑞京伝倭既接収投降方案　東京今午将播送重大消息」（8月15日）

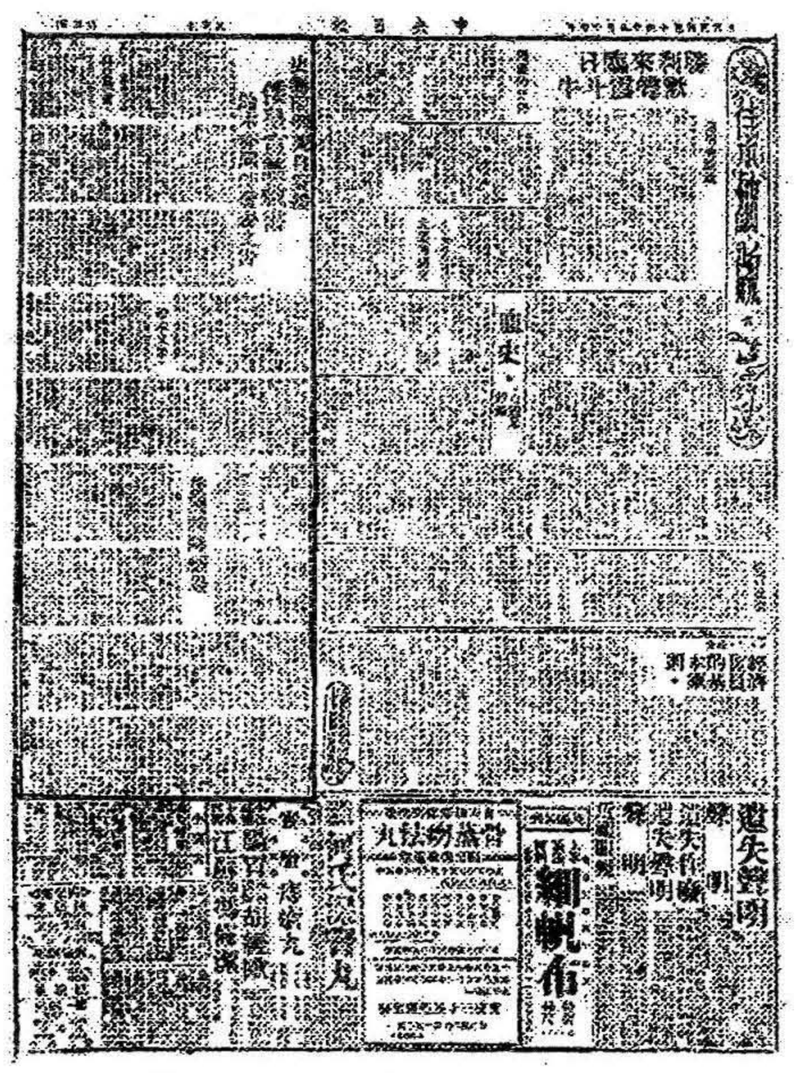
▲「日本既無条件投降　中美英蘇同時正式公布」、「蒋主席勝利之日播講　正義終勝過強権」、社論「完成勝利保証和平」、「蒋主席電賀三強領袖　獲得全面勝利」（8月16日）

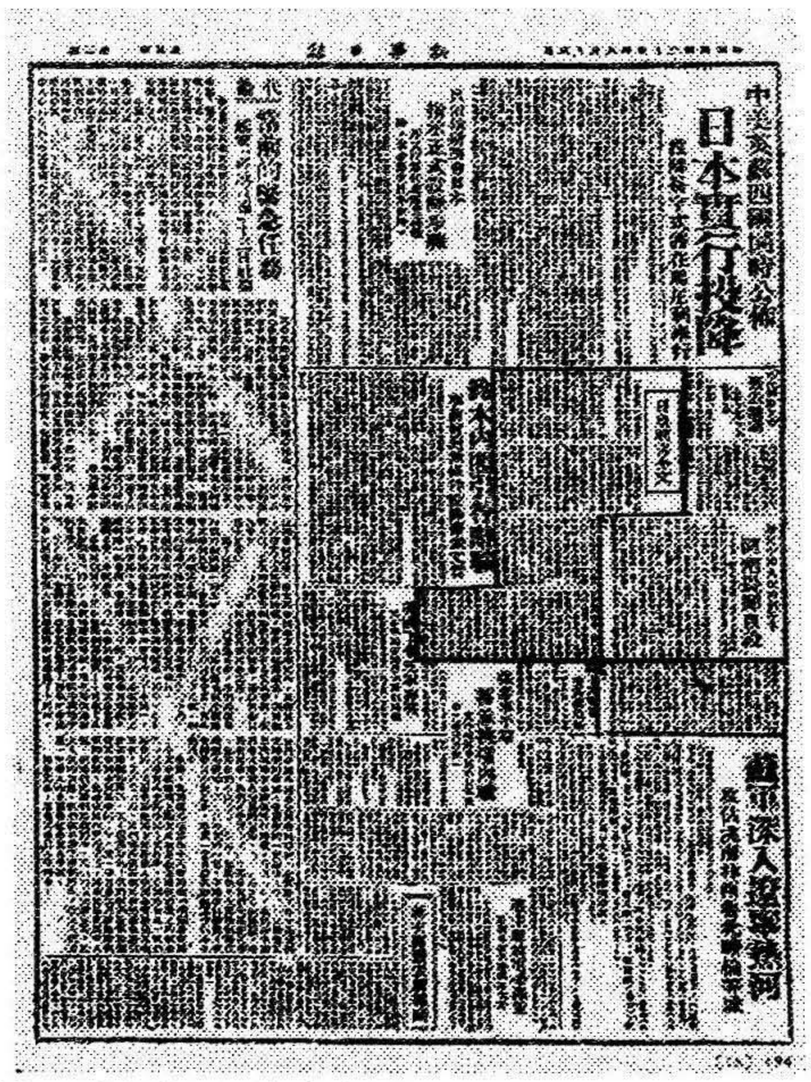
▲玉音放送の中国語訳について

「史無前例親自広播　倭皇宣読勅書　鈴木亦同時発表文告」（『中央日報』、「集納版」8月17日）

「日皇勅書全文」（『新華日報』、8月16日）

資料　2　『中央日報』倭皇宣読勅書、1945年8月17日、『新華日報』「日皇勅書全文」、8月16日





8月18日社論「解除武装　恢復人性」、「陪都各界慶祝勝利　将挙行空前大行進」

8月22日「陪都各界慶祝勝利大会籌備会通告」第3号

8月29日「盟軍今登陸横須賀」　社論「『黒船』今日到東京」

9月1日「紀念我們的節日」ー記者節

②9月3日の記憶

【表2】1945年9月3日の重慶・慶祝勝利大会の準備模様

「慶祝勝利標語」	「陪都各界慶祝勝利大会籌備会通告」	「口号」
慶祝勝利要鞏世界平和、 迅速建立国際安全組織、 徹底粛清日本侵略思想 徹底剷除日本軍閥勢力 鞏固中英美蘇合作（以下、省略）	第1号（8月18日） 第2号（8月18日） 第3号（8月22日） 各界慶祝大会、鳴礼砲、和平之声、露天音楽会、電影、勝利之光というプログラム	抗戦勝利万歳 世界和平万歳 同盟国万歳 中美英蘇合作万歳 蒋主席万歳（以下、省略）

資料　3　『中央日報』、「陪都各界慶祝勝利大会籌備会通告」、1945年8月22日

「日本今簽書」（9月2日）
「陪都慶祝勝利　規定期日開始」（9月3日）
「大戦既勝利結束　日本投降書簽字」、「陪都今日祝勝」（9月3日）
社論「慶祝勝利之感」「慶祝抗戦勝利」の特集号発行（9月3日）
「勝利日在重慶」、「重慶熱烈慶祝勝利」、「蒋主席勝利日文告」（9月4日）

『新華日報』
「蘇聯今日対日宣戦」1945年8月9日
「盟国代表斉集横浜」、「日本降書今日簽字」9月2日
社論「慶祝勝利」、「反法西斯戦争勝利結束」9月3日

③10 月 10 日（双十節）とメディア・イベント

「蒋主席国慶日播講　勗勉同胞群力建国」（10 月 10 日）

「陪都慶祝国慶」、「国慶日慶祝勝利　京滬拡大挙行」、「中華民国三十四年双十節特刊」、「従七七至九九」（10 月 10 日）

「中区慶祝国慶典礼　蒋主席重申建国大任」、「陪都各界盛大集会　熱烈慶祝国慶」、「秋陽普照各地歓度国慶祝　首都挙行謁稜礼」、「軍民五万祝勝遊行長達十里」（10 月 11 日）

■その他の記念日の可能性

「何総司令飛抵南京」（9 月 9 日）

「勝利完成和平永奠」、「蒋委員長第一号命令」、「日軍降書在京簽字」（9 月 10 日）

社論「歴史上重要的一日」（9 月 10 日）

社論「九一八紀念感言」（9 月 18 日）

「陪都紀念九一八　東北抗協挙行大会」、「蒋主席九一八播講」（9 月 19 日）

社論「建設東北」（9 月 19 日）

「天津日軍今晨簽降」（10 月 6 日）

「天津日軍簽降礼成」（10 月 7 日）

「台湾受降昨日開始　」（10 月 8 日）

「今日国父誕辰　陪都各界挙行紀念大会」（11 月 12 日）、「中区紀念　国父誕辰　首都挙行謁稜盛典」、「国父誕辰　収復区紀念会」（11 月 13 日）

3．1946 年とメディア・イベントとしての抗戦勝利記念日

▲「抗戦勝利後首度元旦　蒋主席告全国軍民　統一軍令政令以求安定復興」（1946 年 1 月 1 日）

－「中華民国三五年元旦増刊」の見出しは、「歴史的偉大転換期」、「中国是怎様勝利的」、「世界的任務」（1946 年 1 月 1 日）

－「中枢昨晨開国記念会」「勝利後第一個新年　全国熱烈慶祝元旦　南京：各界代表謁陵　北平：挙行団拝閲兵」（1946 年 1 月 2 日）

▲五四運動記念日と南京への還都

「国民政府 5 日凱旋南京　今日頒佈還都令」、「蒋主席告四川同胞」（5 月 1 日）

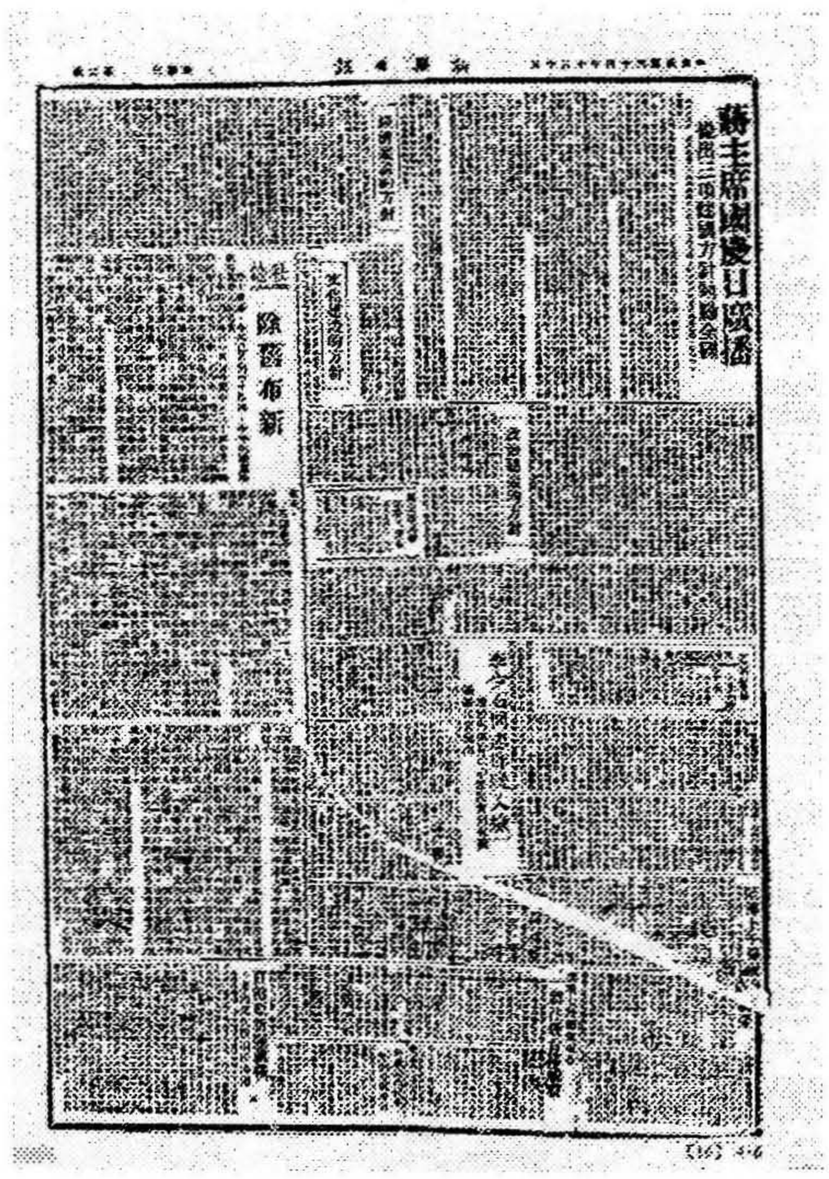
「蒋主席昨凱旋抵京」（5 月 4 日）

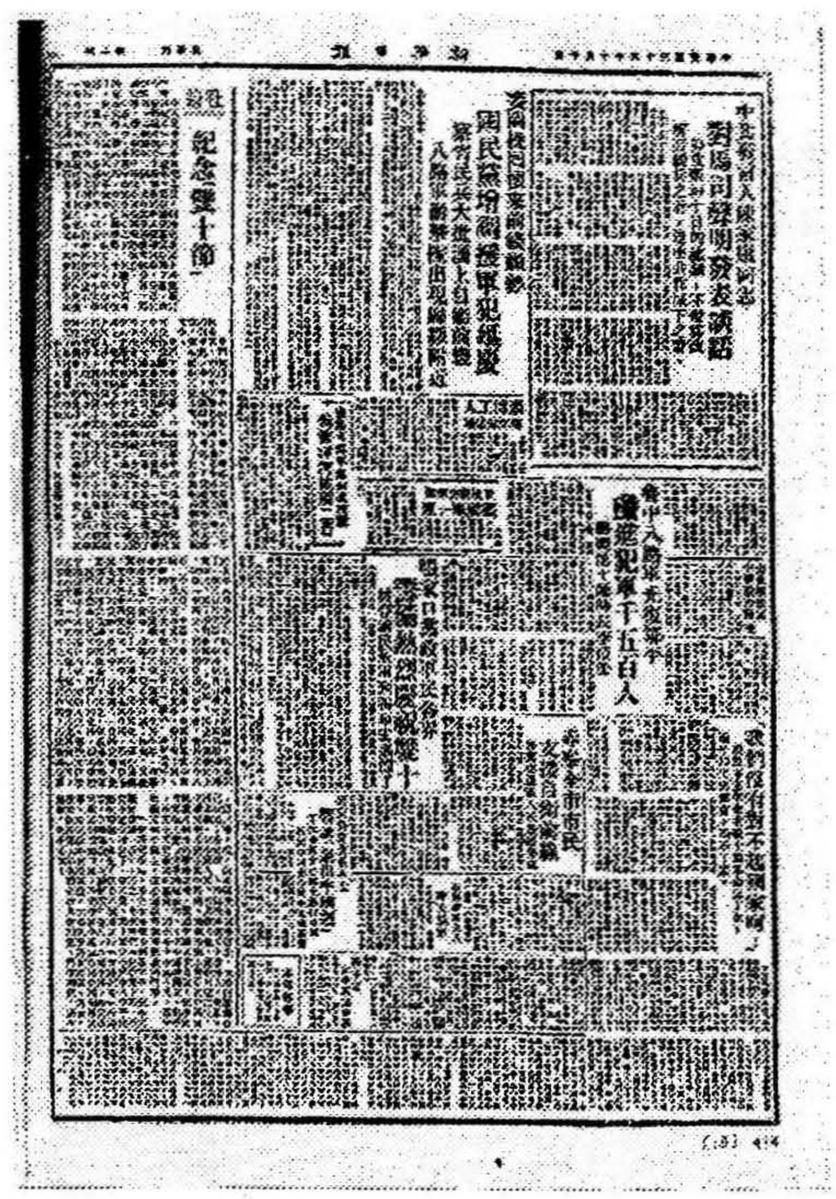
社論「『五四』精神之発揚」、「国際法廷昨開審日戦犯」－日本での東京裁判の様子を報道

「今日在京陵園挙行　国府還都大典」（5月5日）
社論「慶国府還都」（5月5日）
「還都盛典隆重挙行」、「恭謁　国父陵寝告文」、「首都慶祝還都大会中　蒋主席勉全国同胞」（5月6日）
「招待到京国大代表　蒋主席昨挙行茶会　説明延期召開国大原因」（5月8日）

『新華日報』1946年
4月8日～21日までの間―王秦葉鄧の追悼式
5月5日　社論「応把還都典礼成為和平節日」―国民党の無能を批判
1946年8月16日「日本投降一週年解放日報十五日社論
―中国人民の8年抗戦と世界人民の反ファシスト戦争勝利
―「愛敵人」という誤った指令
9月3日社論「究竟誰是戦勝国」
9月4日「蘇連人民熱烈慶祝対日戦争勝利週年」

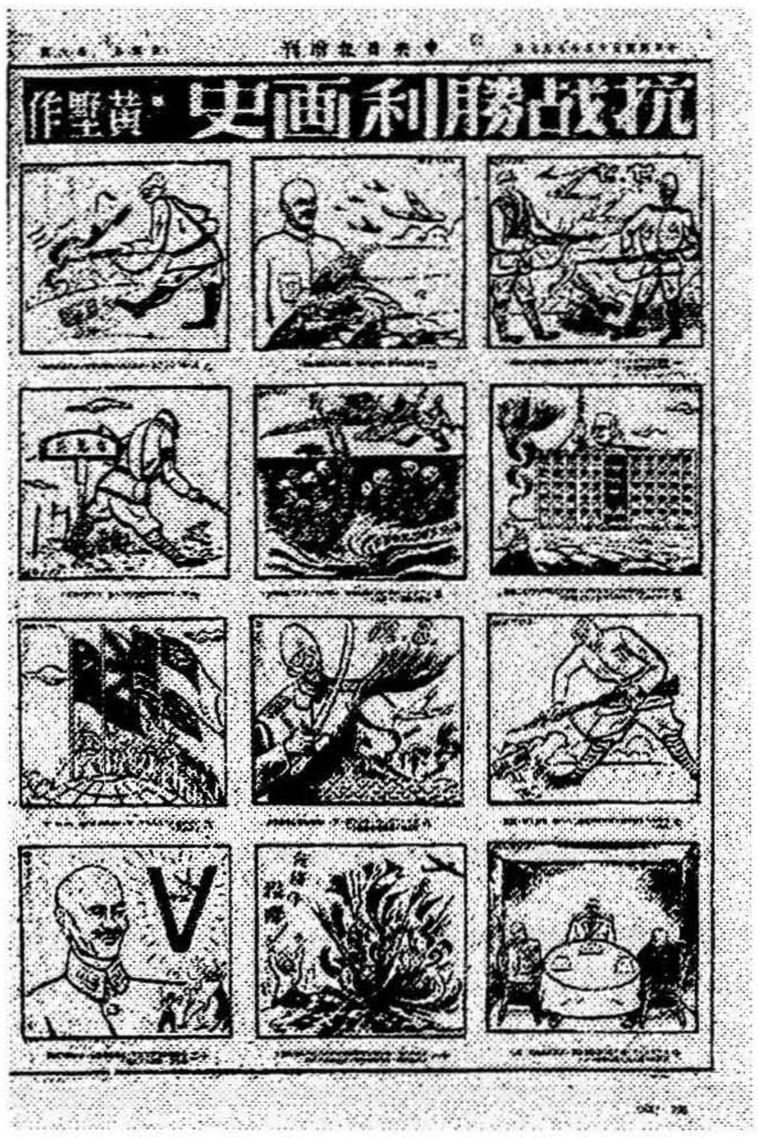
『新華日報』と未完の革命としての双十節
1945年　10月10日、1946年10月10日





▲「首都今日追悼大会　主席将親臨主持　正午警報鳴鐘静黙誌哀」（7月7日）
社論「勝利後第一個七七」（7月7日）
「十一国対日本戦犯公訴書」
第一部　破壊和平罪、第二部　殺人罪、第三部　一般戦罪及違反人道罪

資料　4　　「中央日報増刊」－「抗戦勝利画史」　1946年7月7日



「七七抗戦九周年　全国静黙誌念」（7月8日）－各地の追悼式典の様子を報道
「中央日報　毎週画刊」（7月17日）－七七記念日と遠東国際軍事法廷の写真ニュース。

▲「勝利節」9月1日　－「米蘇里簽降之翌日、陪都重慶挙行万人祝捷大典、盛況空前、薄海騰歓、一朝盡消、主席親乗敞車、遊行全市…」（『中央日報』の月暦）
「抗戦勝利週年　全国熱烈慶祝」（9月3日）
社論「確保勝利成果－為紀念勝利日作」（9月3日）
『中央日報』の特刊－「勝利夜」「勝利小曲」、広告あり

資料　5　『中央日報』1946年9月3日、タバコ広告

「中枢集会紀念勝利」（9 月 4 日）
「九一八十五周年　杜聿明発表感想」（9 月 18 日）
社論「紀念『九一八』十五周年」（9 月 1 日日）
「瀋陽記念九一八」（9 月 19 日）ー全体的には小さめの報道
「京市国民体委会　昨日組織成立」、「民族健康運動会」（9 月 25 日）

▲蒋介石と台湾の光復節
「蒋主席蒞台」（10 月 22 日）
社論「蒋主席蒞止台湾」（10 月 22 日）
「台省喜気洋溢　歓迎元首蒞臨　主席二五日向全台広播」10 月 23 日
「台湾光復一周年」「台湾光復周年」10 月 25 日
「主席会見台胞」「新台湾之光輝」10 月 26 日
「完成台湾巡視主席夫婦返京」10 月 29 日

▲ 蒋介石と還暦のイベント
「全民同慶主席華誕」「蒋主席革命事蹟」（10 月 31 日）ー特集号と広告
「主席六秩華誕日　全国騰歓祝無疆」、「各地盛況」、「最快楽的一天」、「首都熱烈慶祝」
(11 月 1 日)
「慶祝主席六秩華誕」（『中央日報』毎週画刊、11 月 10 日）ー写真報道とアジア的な祝い
「慶祝蒋主席六一寿辰記念特刊」（1947 年 11 月 19 日）の毎週画刊にも掲載

資料　6「慶祝主席六秩華誕」・「紀念国府誕辰」

（『中央日報』毎週画刊、1946 年 11 月 10 日、1947 年 11 月 19 日）

▲11 月 15 日「国民大会開幕　執行制憲任務」
社論「祝国民大会開幕」
特別発行「国民大会開幕画刊」第 1 号
「国民大会掲幕」（11 月 16 日）
「国大代表哀悼忠魂」（11 月 17 日）→毎週画刊「国民大会隆重開幕」（11 月 24 日）

「国大首次大会」（11 月 25 日）－12 月中旬まで国民大会

4．1947 年 9 月 3 日の抗戦勝利紀念日と体育イベント

▲5 月の五四運動記念日と 7 月の盧溝橋事件
（社論「蔡孑民先生的警告」5 月 4 日、「偉大的五五」、「還都記念日」5 月 5 日、「京学生記念五四－五千余人昨在中大集会」「平津熱烈記念－胡適講述新思潮意義」、「中央昨日記念革命政府成立」5 月 6 日、「七七抗戦十周年主席広播努同胞」7 月 7 日、社論「努力是成功之母－記念『七七』十周年」、
社論「両条道路」7 月 8 日）

▲社論「祝印度独立節」8 月 15 日
国際週刊「為新生的印度祝福」、「印度的独立与分治」8 月 15 日
「勝利両週年記念　張院長向美広播」

▲社論「勝利日致全国軍民」、「今日九三勝利記念各界挙行慶祝大会」9 月 3 日
「勝利日特刊」―「二年来之経済」、「両年来之政治」、「勝利二周年感言」、「勝利日小史」という項目－「本党中央常任委員会」の決定により、七七、九一八の紀念行事が停止
「慶祝勝利両週年」（毎週画刊）
「各界昨祝慶勝利両週年」9 月 4 日
「五台山陳列館昨展覧戦利品」9 月 4 日

「推行国民体育的方向」、「体育節感言」9 月 9 日－北京から広東までの全中国の全学生の動員

資料　7　『中央日報』1947 年 9 月 9 日

▲　双十節とメディアの動員
「党史編纂因会主弁　展覧辛亥革命史料」（10 月 9 日）
「国慶日　主席書告国民」「中枢慶国慶今日有盛典」（10 月 10 日）
社論「迎接憲政ノ双十節」（10 月 10 日）－増刊頁―世界各国の国慶日の由来

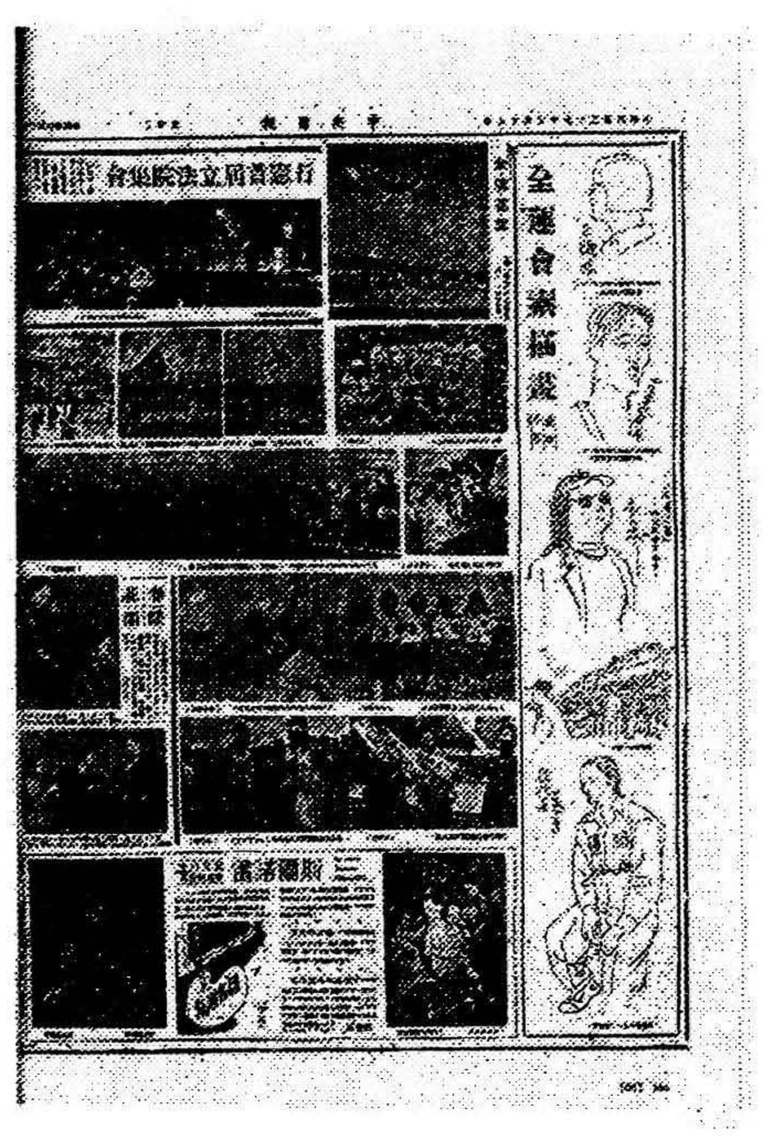
「主席主持国慶盛典」、「駐華各国使節赴国府祝国慶」、「海外僑胞　慶祝国慶」、「慶祝国慶宣伝行憲　各界昨日晨挙行大会」（10 月 11 日）→「国府慶祝双十国慶」（毎週画刊、10 月 22 日）
「台湾光復万歳」（10 月 26 日）ー行政院長張羣が参加し、「慶祝光復勿畏過度困難　建設台湾必須崇法務実」という題の演説の後、台湾各界を視察（毎週画刊、11 月 5 日、11 月 12 日）
→南京「軍事法廷審日戦犯　三殺人元凶処死刑」（12 月 19 日）の報道ー写真入り。

5．1948 年の国民大会と 9 月 3 日記念日

▲国内政治のイベントと 5 月全国運動会
1948 年 4 月に開催される国民代表会議
「蒋中正当選首任大総統」（4 月 20 日）
「李宗仁当選首届副総統」（4 月 30 日）
「国大 16 次回通過組織憲政督導委会」（5 月 1 日）ー蒋介石と李宗仁が正式に選出される。
国大円満閉幕（5 月 2 日）ー国内政治のイベント

「七届全運今日掲幕」、「全国運動会的歴史与意義」（5 月 5 日）ー上海開催（1937 年 10 月 10 日、第 7 回は中止）
ー全国運動会が終了する 5 月 15 日までの間にスポーツ関連記事が新聞の 1 面を飾る。
ー「救国救種的唯一要図、就是提唱体育」という発想
毎週画刊に特集「全運会的優勝者」（5 月 19 日）
「総統就任式」（5 月 20 日）
「総統副総統就任」（5 月 21 日）
社論「在総統大政方針之下」（5 月 21 日）ー「首任総統副総統就任大典」（毎週画刊、5 月 26 日）

資料　8　『中央日報』「全運会昨日下午阻雨」1948 年 5 月 8 日、毎週画刊、5 月 19 日



▲ 8 月 15 日と 9 月 3 日の抗戦勝利記念日

「七七難忘」（7 月 7 日）ー中国にとって 9．18 は中国の抗日運動の序幕、7.7 は中国抗日戦争の起点
「印度独立一週年」（8 月 15 日）
「印度独立的意義」、「慶祝印度独立」（8 月 16 日）

「日本簽降記念」と「勝利日」を分ける9月2日
社論「勝利日献辞」（9月3日）
「今天勝利日ー全市懸旗慶祝」（9月3日）
「勝利日特刊」、「管制日本問題」
「九三史話」の記事ー「民国三十五（1946）年本党中常委決定以九月三日為抗戦勝利日」
「全国各地慶祝勝利中区秋祭陣亡将士」、「首都各界祝勝利日　挙行大会秋祭烈士」（9月4日）
9月10日「紀念九九受降」中国戦区での降伏

10月10日「認識危機、争取生存」双十節献辞
10月11日「国慶日総統勉同胞」「記念国慶推行勤倹」「集団結婚新人249対」
10月25日「台湾光復3周年」社論「台湾対祖国的貢献」／10月27日毎週画刊「台湾光復紀念」★
同時期に博覧会を開催／→「台湾省博覧会盛況」毎週画刊　11月10日

資料　9　『中央日報』毎週画刊、1948年10月27日、11月10日

1948年11月11日／南京戒厳令／「首都戒厳令」「首都臨時戒厳」

新華日報（太行版）1949年8月15日
中共中央東北局東北行政委員会発佈通知
「隆重紀念『8・15』四週年朝鮮人民也積極籌備慶祝」

まとめ

国家によって管理される集団の記憶が義務教育とメディア・イベントを通じて体系的に管理され、再生産されるとするならば、1949年以降の中国大陸と台湾における記念日の設定はその典型的な例になろう。1945年～1949年の間の『中央日報』の新聞報道をみても、9月3日の抗戦勝利記念日が中国の国内政治や国際政治の脈絡で常に揺れ動いていたことがわかる。時には蒋介石の還暦祝いという個人の崇拝との関連で抗日の戦いと戦績が強調され、ときには体育というイベントで抗日戦争と国民体育増進という理念は合体した。

『中央日報』1945年8月17日

史無前例親自廣播
倭皇宣讀敕書　鈴木亦同時發表文告

・ 日皇敕書・

〔中央社訊〕據東京十五日廣播・・日皇裕仁對日本人民宣讀之敕書, 全文如次・・

「我忠良之臣民乎！吾人於深切考慮世界一般情勢以及今日之我帝國之實際情況之下, 已決定以非常措施解決當前情勢, 吾人已命令我政府向中美英蘇四國政府致送照會, 謂我帝國接受彼等聯合宣言之條款, 為一切國家之共同繁榮與快樂以及我國臣民之安全與福利而奮鬥, 乃我帝國列祖列宗所流傳之神聖義務, 亦為吾人所衷心關切者。吾人對美英宣戰, 確係誠心希望保證日本之自衛以及東亞之安定, 吾人並未思及妨害其他國家之主權或擴展領土。然目前戰爭已將及四載, 雖則吾人已盡最大努力——陸海軍之英男作戰, 我國家公僕之辛勤罷免以及我一億民眾之精心竭力, 戰局之發展, 却未必於日本有利, 世界之一般情勢更均與日本之利益相違, 況「敵」人已開始使用一種最殘酷之新炸彈, 其造成損害之威力, 的確難以估計, 使我無辜生靈橫遭浩劫。却吾人繼續作戰, 則其結果不僅為日本全國之最後崩潰與消滅, 人類文明亦將完全滅絕, 在此種情況之下, 吾人將何以挽救億萬臣民, 在我帝國列祖列宗靈前更何以自瀆, 此即吾人所以下令接受四國聯合宣言條款之理由也。吾人在東亞之各盟國, 曾不斷與帝國合作解散東亞, 吾人對於彼等惟有表示最深切之遺憾, 吾人每一念及在彊場殉身之將士及其他人員在崗位上殉職, 以及死於非命者, 以及彼等之孤兒寡婦, 誠不禁五內如焚, 傷者及飽受戰爭塗毒者, 以及喪失其家庭與生計之福利者, 乃吾人深切懸念之問題。此後我國行將遭遇之國難與痛苦, 必極重大, 吾人深知汝等臣民之內心情緒, 然由於時間與命運之逼迫, 吾人已決定忍受所有不能忍受者, 為後代子孫之全盤和平開闢途徑, 吾人既然保全帝國之機構, 即可與我忠良之臣民永遠其處, 依賴汝等之真誠, 汝等應抑制任何感情之勃發, 盡此舉可能產生不必要之糾纏, 亦應防止任何鬩墻之爭, 以免造成混亂, 令汝等誤入歧途, 失去舉世之信心。願我全國世世代代繼續為一家, 堅定其對於神聖土地不可毀滅之信心, 牢記其責任之重負, 以及未來之漫長途程, 團結汝等之全部力量, 致力於未來之建設, 開闢真正之途徑, 養成高貴之精神, 以決心從事工作, 俾能增進帝國固有之光榮, 並與世界之進步並駕奔驅。」

・ 鈴木文告・

〔中央社訊〕據東京十五日廣播・・日本內閣本日對全國發表與接受波茨坦宣言之敕書有關之文告稱・・「天皇陛下之敕書, 已於本日頒佈, 日本帝國從事東亞戰爭幾及四年, 然終至吾人除遵從天皇陛下聖意, 以非常措施結束此一事態之外, 別無他途可循。吾人以天皇陛下臣民之地位, 實難覓得適當字句以表達吾人之惶恐。自開戰以來, 無數將士捐軀異域, 國內所受之損害, 以及無辜民眾所受之犧牲, 已達極點, 吾人之悲戚與怨憤, 實無涯岸。目前已無法實現吾人之戰爭目的。戰爭之進展未必於吾人有利, 新炸彈之使用, 已令作戰方法發生變化, 項種炸彈之破壞力, 在科學史上誠屬空前無匹, 且蘇聯已於八月九日對日本宣戰, 日本已遭遇空前困難之情勢, 天皇陛下為世界和平與其臣民之福利計, 已頒賜敕書, 吾人臣民必須循之途徑, 已屬顯然。未來日本自將遭遇更多之困難, 人民必□更事忍耐, 然日本必須以忍耐發展其未來之命運。內須總理大臣為此沉痛要求我民眾, 斷然應付此種困難, 目前吾國人必須遵循之途徑, 乃保持吾人之國體, 人民應勿追究過去, 互相猜忌, 內部發生爭執, 使他人坐牧漁人有利, 亦勿以鹵莽或盲目之行動, 或感情衝動, 在全世界眼光中喪失信心與正義。同時所有人民, 必須努力護救死者及傷殘軍人之孤寡家庭, 政府將與人民協同一致, 遵從敕書中之聖訓, 與天皇陛下同其一心, 以恢復國家威望, 以不負我列祖列宗之期望。余趁此機會, 特別提及全國官吏之責任, 應為應付此種困難情勢, 天皇陛下云:梁深知其臣民之內心情緒, 全國官吏應忠心執行天皇陛下之聖意, 努力擔負前驅, 發揚一種恢復之強烈精神。